

# やまなし花き振興計画



令和2年3月

山梨県農政部

# 目 次

## 第1章 改定の基本的な考え方

1 改定の趣旨	1
2 計画の位置付けと期間	1

## 第2章 本県花き生産の現状及び花き産業をとりまく環境の変化

1 本県花き生産の現状	2
(1) 栽培面積	2
(2) 生産額	4
2 農家・農業者の現状	6
(1) 農家戸数	6
(2) 新規就農者	6
3 販売流通の現状	7
(1) 卸売市場における主要花き品目の取扱数量と平均単価	7
(2) 直売所等地域内販売の動き	8
(3) 消費の現状	9

## 第3章 本県花きの目指すべき姿

1 目指すべき姿	11
2 目標	11

## 第4章 アクションプラン（今後4年間の取り組みの方向）

1 需要に応じた花きの生産強化	12
(1) オリジナル花きの開発・育成・生産の拡大	13
(2) 高品質、省力化・低コスト化に向けた技術の開発・普及	13
(3) 新たな需要や地域に適した品目・品種の選定と商品化の支援	15
2 県産花きのPRと販路の拡大	16
(1) 消費地でのPRと販路の拡大	16
(2) 花の地産地消の推進	17
(3) 県立フラワーセンターでの県産花きのPRと消費拡大	18
3 花き産地の活性化と県産花きの新たな利用の拡大	19
(1) 担い手の組織活動の活性化	19

(2) 農福連携などによる福祉分野と連携した県産花きの利用促進・・・	20
(3) 観光分野での県産花きの利用促進・・・・・・・・・・・・・・・・	20
(4) 地域と連携した花育活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・	21

## 第5章 地域別重点推進事項

1 中北地域・・・・・・・・・・・・・・・・	22
2 峡東地域・・・・・・・・・・・・・・・・	26
3 峡南地域・・・・・・・・・・・・・・・・	29
4 富士・東部地域・・・・・・・・・・・・・・・・	31

## 第6章 主要品目の推進事項

1 洋ラン（コチョウラン、シンビジウム）・・・・・・・・	35
2 鉢花(シクラメン、アッサムニオイザクラ)・・・・・・・・	36
3 県オリジナル花き(ふじさんアジサイ、クリスマスエリカ)・・・・	37
4 切り花・・・・・・・・・・・・・・・・	38
5 苗物類・・・・・・・・・・・・・・・・	39

# 第1章 改定の基本的な考え方

## 1 改定の趣旨

本県の花きは、日本一の日照時間や夏期冷涼な高冷地を有するなどの恵まれた気候条件や、大消費地に近い立地条件を活かし、洋ラン、シクラメンなどの施設鉢花やバラなどの切り花、花壇苗などが生産される産地を形成してきました。

しかし、花きの消費低迷や生産コストの増大、担い手の高齢化、輸入品の増加などにより、近年その生産額は減少傾向にあります。

このような中、県では、平成28年3月に、「やまなし花き振興計画」を策定し、花き産地の強化や県産花きの販売促進、県民への花き文化の普及などに取り組んできました。

また、県では、令和元年度に、農業者の更なる所得向上と農山村の活性化に向け、重点的に取り組む施策や具体的な数値目標などを示した「やまなし農業基本計画」（令和元年～令和4年）を策定しました。

花きにおいても、需要や環境の変化に対応し、その生産振興と花きを活用した農山村の活性化に向け、目指すべき目標や、重点的に取り組む施策等を見直し、花き振興計画を改定することとします。

## 2 計画の位置付けと期間

- 「やまなし花き振興計画」（以下「本計画」という。）は、令和元年度から令和4年度までを計画期間とする「やまなし農業基本計画」の花きの部門計画と位置づけます。
- 本計画は、「花き振興に関する法律」（平成26年法律第102号）に規定する「都道府県花き産業及び花きの文化の振興に関する計画」として位置づけます。
- 本計画の計画期間は、令和元（2019）年度から令和4（2022）年度までの4年間とします。

## 第2章 本県花き生産の現状及び花き産業をとりまく環境の変化

### 1 本県花き生産の現状

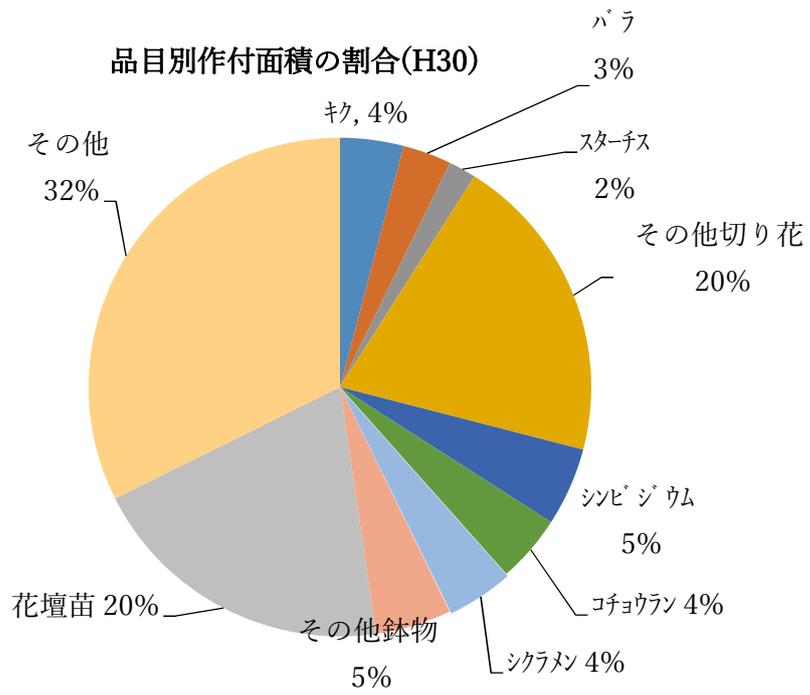
#### (1) 栽培面積

平成30年の花き栽培面積は、合計122.9haであり、品目別には、切り花類が35.7ha、鉢花類が23ha、花壇苗が24.5haとなっており、栽培面積は平成26年と比較して8.6ha減少しています。栽培面積減少の主な要因としては、高齢化や担い手不足、他の作目への転換、消費の低迷等があげられます。

#### 栽培面積の推移

単位:ha

品目別\項目別\年度		平成20年	平成23年	平成26年	平成30年
切 花 類	キク	10.9	10.1	7.8	5.0
	バラ	7.1	6.9	4.0	3.8
	スターチス	6.3	5.7	2.5	2.2
	その他切花類	26.0	26.0	24.4	24.6
	小計	50.3	48.6	38.7	35.7
鉢 花 類	シンビジウム	9.8	9.0	6.2	6.3
	コチョウラン	6.2	5.8	5.8	5.4
	シクラメン	8.7	8.7	5.9	5.3
	その他鉢花類	10.0	10.0	7.5	6.0
	小計	34.6	33.4	25.4	23.0
花壇苗		31.5	32.8	26.6	24.5
その他		41.2	40.8	40.8	39.8
合計		157.5	155.6	131.5	122.9



## (2) 生産額

平成30年の花き生産額は、39億6千万円と、平成26年以降低迷が続いています。

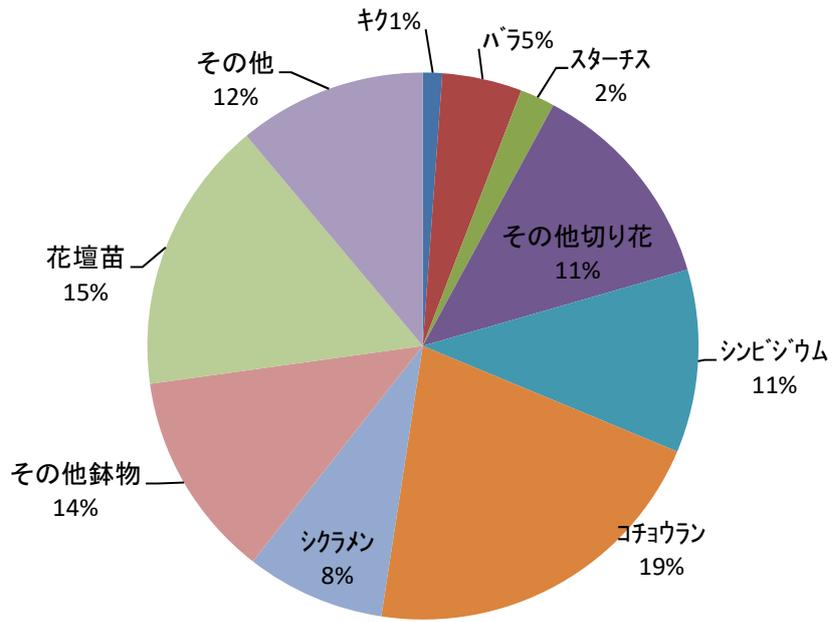
品目別には、切り花類が8.1億円、鉢花類が20.7億円、花壇苗が6.4億円となっています。高齢化や他の作目への転換などによる栽培面積の減少が主な要因となっています。

### 生産額の推移

単位：億円

品目別\項目別		平成20年	平成23年	平成26年	平成30年
切 花 類	キク	1.6	1.8	0.8	0.5
	バラ	4.1	3.9	2.2	1.9
	スターチス	2.2	2.1	0.7	0.8
	その他切花類	5.0	5.0	4.2	5.0
	小計	12.8	12.8	8.0	8.1
鉢 花 類	シンビジウム	7.7	7.0	4.4	4.3
	コチョウラン	10.0	7.8	7.7	8.4
	シクラメン	4.9	4.7	3.0	3.2
	その他鉢花類	7.9	8.4	5.5	4.8
	小計	30.5	27.9	20.6	20.7
花壇苗		5.9	6.7	6.1	6.4
その他		5.4	5.4	4.7	4.4
合計		54.6	52.8	39.5	39.6

### 品目別生産額の割合(H30)



## 2 農家・農業者の現状

### (1) 農家戸数

平成 27 年の販売目的で花きを栽培している農家戸数は 306 戸で、本県の販売農家の 1.8%を占めています。

#### 山梨県販売農家数の推移と花き農家の割合

	H12	H17	H22	H27
山梨県の販売農家数※1 (戸)	26,480	22,529	20,043	17,020
花き販売農家数※2 (戸)	309	459	389	306
花き販売農家の割合 (%)	1.2	2.0	1.9	1.8

※1 山梨県の販売農家数：専業農家、第1種兼業農家、第2種兼業農家

※2 花き販売農家数：販売目的の作物の類別作付（栽培）農家数「花き類・花木」  
農林水産省統計部「農林業センサス」

### (2) 新規就農者

花き生産の新規就農者数は、平成 27 年から平成 30 年まで 22 人で、うち新規自営就農者は 3 人、その他は農業法人等への新規雇用就農者となっています。

#### 新規就農者数

単位：人

	H27	H28	H29	H30	合計
新規就農者の総数	290	304	314	303	1211
うち花き就農者数	3	6	6	7	22
うち自営就農者数	0	1	0	2	3
うち雇用就農者数	3	5	6	5	19

山梨県農政部

### 3 販売流通の現状

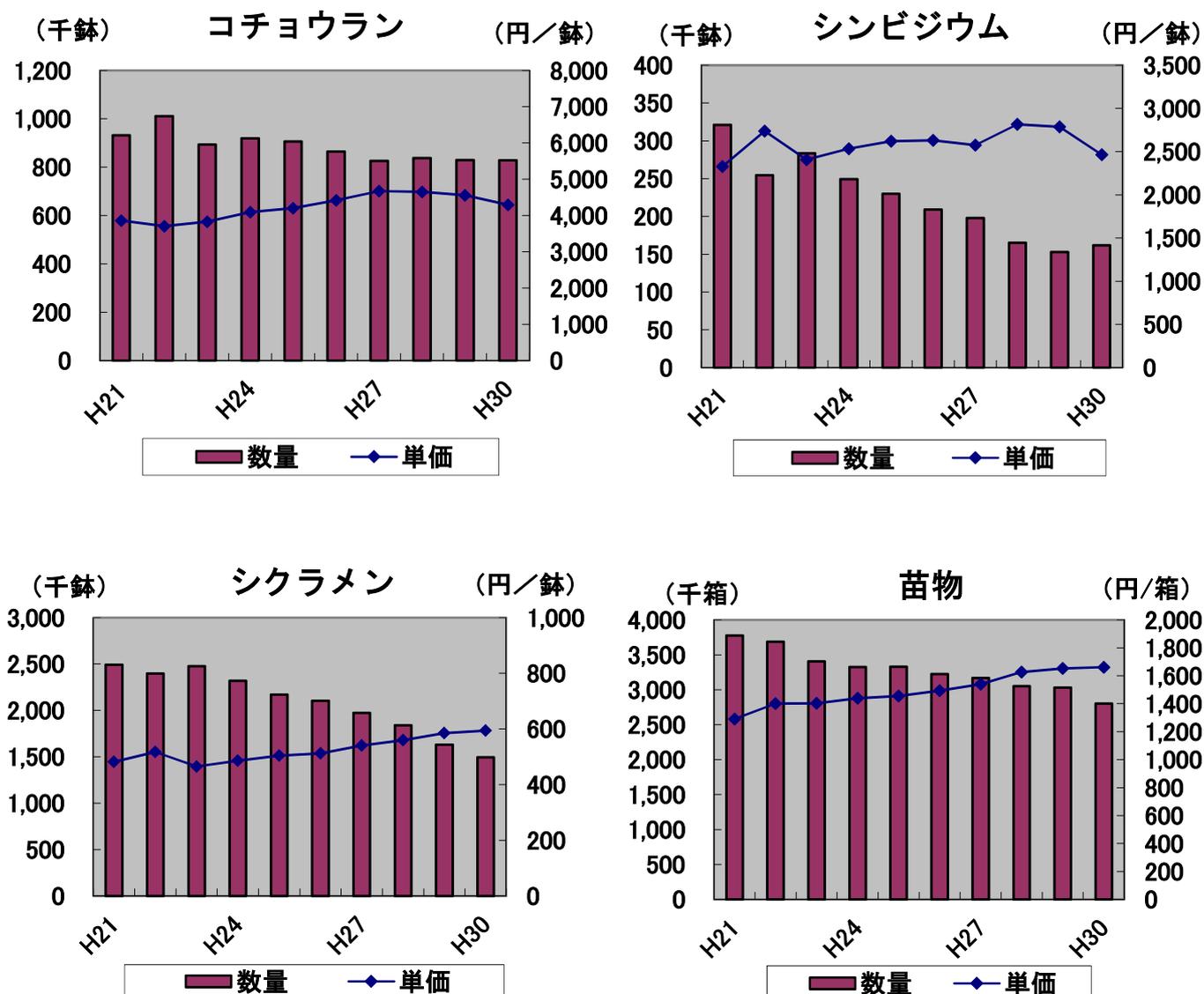
#### (1) 卸売市場における主要花き品目の取扱数量と平均単価

東京都中央卸売市場における全国の主要花き品目の取扱数量は、コチョウランは横ばいで推移していますが、シンビジウム、シクラメン、苗物は減少傾向です。

平均単価は、コチョウランとシンビジウムは概ね横ばいで推移していますが、シクラメンや苗物は出荷量等の減少等に伴い緩やかに上昇しています。

山梨県産の主要品目の取扱数量と平均単価についても、コチョウラン、シンビジウム、シクラメン、苗物ともに全国と同様の傾向となっています。

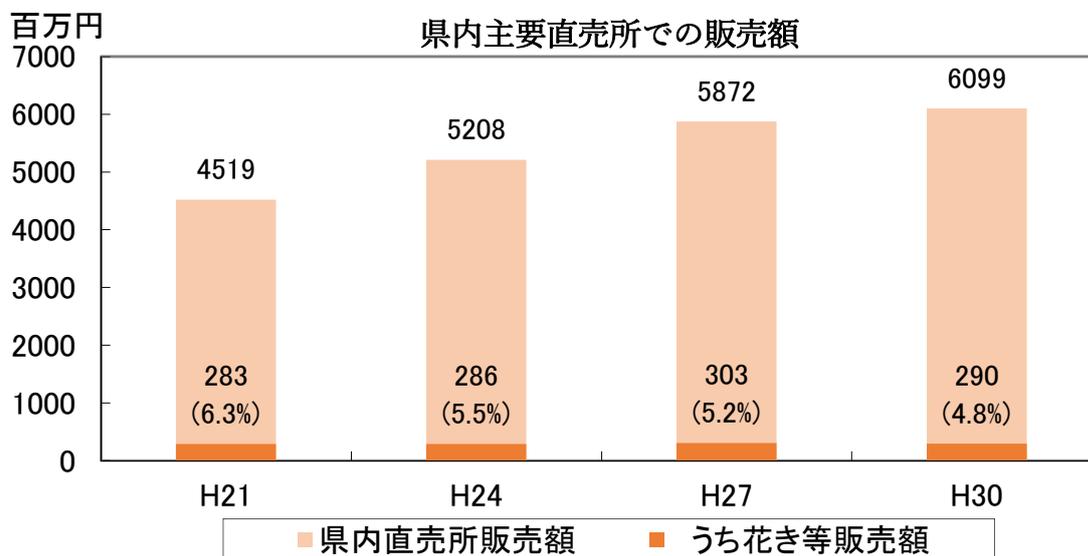
東京都中央卸売市場における品目別の取扱数量と平均単価の推移



東京都中央卸売市場「流通統計情報」

## (2) 直売所等地域内販売の動き

県内の道の駅やJ A直営などの主要直売所の販売額が年々増加傾向にある中で、花きは、切り花類を中心とした販売が行われ、販売額はほぼ横ばいで推移しています。平成30年の花きの販売額は2億9千万円で、直売所販売額の約5%となっています。

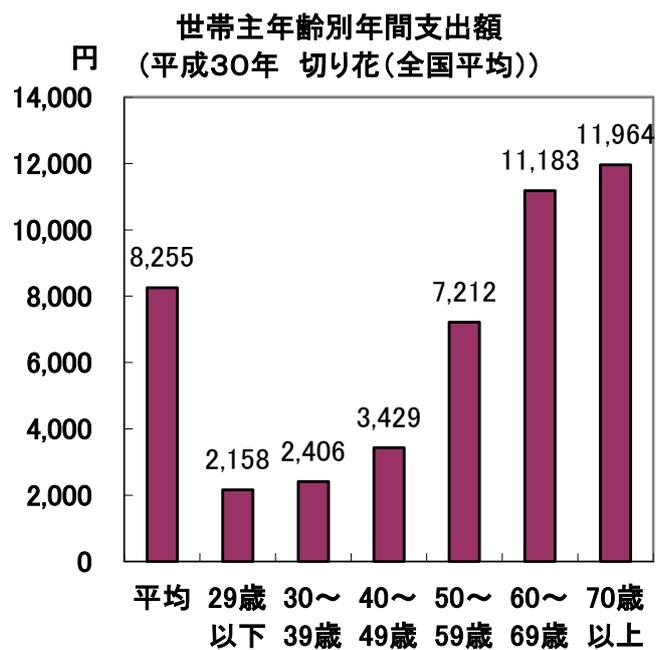
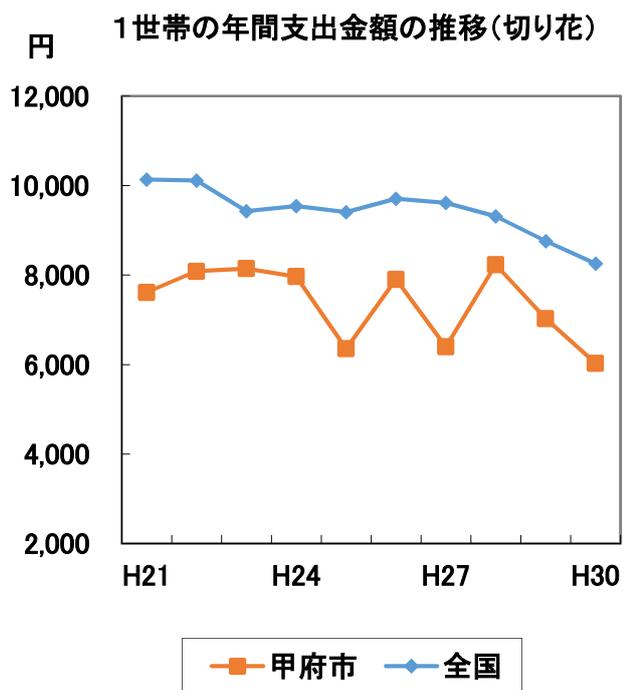


山梨県農政部

### (3) 消費の現状

① 平成30年の一世帯あたりの花き（切り花）の支出金額は、全国平均が8,255円、甲府市の支出金額が6,028円で、ともにやや減少傾向です。

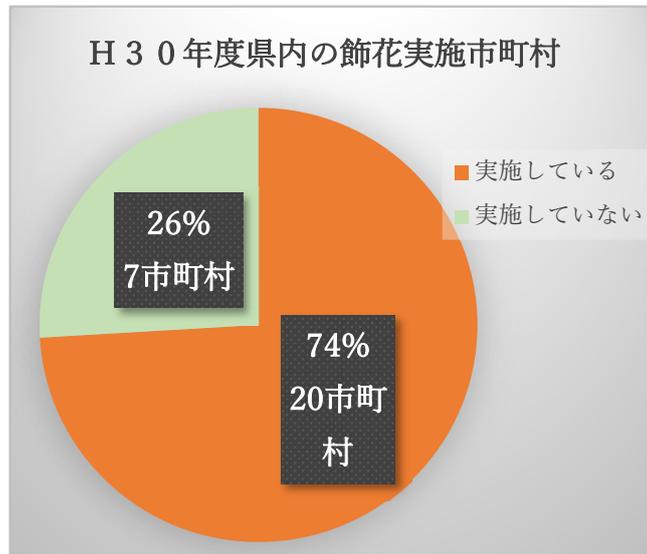
平成30年の世帯主の年齢別年間支出額（全国平均）は、29歳以下は約2,158円と最も低く、70歳以上は11,964円と最も多く支出しています。



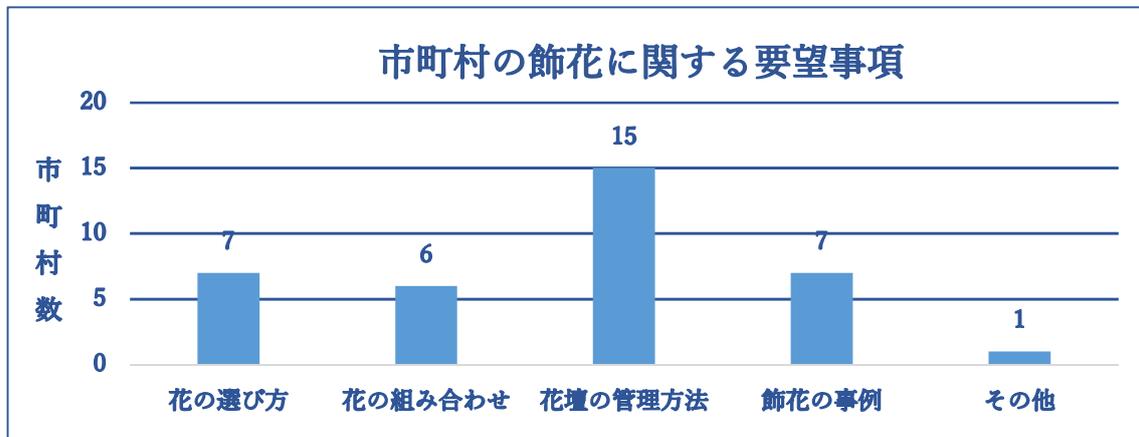
総務省家計調査(家計収支)調査結果

② 県内では、主に地域の花壇や公共施設等で飾花が行われており、平成 30 年度は、県の 70%以上の市町村で飾花の取組を実施しています。

飾花の取組における課題としては、飾花後の管理の負担や省力的で長期間観賞できる花壇の管理があげられています。



市町村への飾花等実施状況に関するアンケート調査結果（平成 31 年 4 月）



山梨県農政部

## 第3章 本県花きの目指すべき姿

### 1 目指すべき姿

#### 「県産花きの魅力向上と花き生産者の所得向上」

本県花きの振興を図るためには、多様化が進む消費者のニーズをとらえ、新たな魅力提案につながる県産花きの生産強化・利用拡大を推進し、生産者の経営の安定化を図ることが重要であることから、『県産花きの魅力向上と花き生産者の所得の向上』を本計画の目指すべき姿とします。

#### 《将来の姿（10年後）》

- 消費者のニーズに対応した品目・品種が導入され、その生産が定着し、県産花きの高付加価値化が進んでいます。
- 県内の実需者や消費者に県産花きの魅力が認知され、県内各所での活用と定着が図られています。
- 観光や福祉など新たな分野での県産花き利用が進み、花き産地が活性化しています。

### 2 目標

- (1) 多様なニーズに対応した高品質な県産花きの生産強化
- (2) 観光や福祉等新たな分野と連携した県産花きの利用促進

「県産花きの魅力向上と生産強化による生産者の所得の向上」を実現するためには、多様化する消費者のニーズに対応した品目の導入や商品開発、高品質化、省力化・低コスト化技術を普及するとともに、生産された花きの魅力を県内外の市場・小売店等の実需者や消費者へPRしていくことが必要です。

また、豊かな観光地を有する本県の立地条件や、花の魅力である美しさ、癒やしなどの効用を活かし、観光や福祉など新たな分野での利用を拡大し、花き産地の活性化につなげていくことが重要です。

このため、「多様なニーズに対応した高品質な県産花きの生産強化」と「観光や福祉等新たな分野と連携した県産花きの利用促進」という2つの目標を掲げ、本県花きの振興と、豊かな農山村づくりを関係機関と一体となって取り組んでいくこととします。

## 第4章 アクションプラン

令和元(2019)年度から令和4(2022)年度までの4年間に具体的に取り組む施策・事業の内容と工程は次のとおりです。

### 1 需要に応じた花きの生産強化

#### 【取り組みの方向】

- ・ 花き産地の振興を図るため、新たなオリジナル花きの育成と種苗供給、栽培技術の普及による生産拡大、利用の拡大に取り組めます。
- ・ 高品質化、省力化・低コスト化技術等の開発・普及を推進するとともに、花きの新たな需要に応じた品目・品種の選定や商品化を支援し、花きの生産を強化します。

#### 《数値目標等》

成 果 指 標	現 況 値 (H30)	目 標 値 (R4)
ふじさんアジサイ※(ピラミッドアジサイ)出荷量(年間) ・生花、ドライフラワー等加工品、鉢花、苗物類(飾花用苗含む)	合計 15,000 本・株	合計 30,000 本・株 (生花等 16,000 本) (鉢花等 14,000 株)
新たな需要に応じた新商品の開発	—	3 品目(品種)

※山梨県内で生産されたピラミッドアジサイのうち次の3品種を「ふじさんアジサイ」と称します。

ふじさんアジサイの品種は、県オリジナル品種「ふじさんアジサイ‘あかね’(山梨 24-1)」、  
「ふじさんアジサイ‘ほくと’(山梨 22-1)」、既存品種「ライムライト」

## 【主な施策】

### (1) オリジナル花きの開発・育成・生産の拡大

具体的な取組事項						
<p>① ふじさんアジサイの新品種として、新たに切り花・飾花に適する系統や、新色、無雄ずい系統の育成に取り組みます。</p> <p>② ふじさんアジサイの生産を拡大するため、開花と花色変化に及ぼす影響について試験を行います。また、切り花の剪定・仕立て方法、鉢花の草姿改善技術等を確立・普及します。</p> <p>③ オリジナル花き等の早期産地化を図るため、種苗生産に関する需要調査を行い、県オリジナル品種や、栽培特性を確認した切り花・花壇苗等の品目・品種について、高冷地野菜・花き振興センターにおいて県内生産者への種苗供給に取り組みます。</p> <p>④ ふじさんアジサイ等の飾花への利用を拡大するため、生産者団体や関係機関と連携し、展示PRや、品目・品種に適した管理技術情報の提供等に取り組みます。</p>						
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）				
		R1	R2	R3	R4	
①新品種の育成	総合農業技術センター	[進捗条]				
		品種育成			普及	
②栽培技術の確立・普及	総合農業技術センター	[進捗条]				
	農務事務所	技術確立		普及支援		
③種苗の生産・供給	総合農業技術センター	[進捗条]				
		生産供給 需要調査				
④オリジナル花きの利用拡大	総合農業技術センター	[進捗条]	[進捗条]	[進捗条]	[進捗条]	
		開花特性調査	花色変化調査	普及支援		
		マニュアル作成	研修会開催	研修会開催		
	花き農水産課	[進捗条]	[進捗条]			
		展示PR支援	導入支援			
	農務事務所	[進捗条]	[進捗条]			
	現地調査	導入支援	普及			

### (2) 高品質化、省力化・低コスト化に向けた技術の開発と普及

具体的な取組事項
<p>① 鉢花の高品質化により他産地との差別化を図るため、アッサムニオイザクラの高温時落花抑制やクリスマスエリカの日持ち向上など、品質向上技術の普及に取り組みます。また、花壇苗については、9 マステスト※結果を活用した最適土土生産に向けた支援を行います。</p> <p>※土壌水分、pH(酸度)をそれぞれ3つずつ組み合わせ(3×3=9マス)、同一場所で同時に比較試験する方法</p>

- ② 花壇苗等の需要拡大を図るため、地域や用途に適した品目・品種の選定、実需者のニーズに対応した新たな出荷規格やその生産に向け、栽培技術の確立を図ります。  
 さらに、公共施設等での飾花後の管理作業の省力化や、観賞期間を延長する栽培技術の確立と普及に取り組みます。
- ③ 鉢花栽培の高品質化・生産効率向上・省力化を図るため、コショウランでのLED補光によるハウス内影部の光条件の改善や、クリスマスエリカの冷蔵施設を利用した低温処理による省力的な早期開花技術を普及します。
- ④ 需要期の切り花の高品質化と低コスト化に向け、お盆(7月、8月)、彼岸(9月)に加え、新たに年末や3月の彼岸などの需要期にも出荷可能な品目・品種の選定と、無加温ハウスを活用した低コスト栽培技術などの普及に取り組みます。

取組事項	担当部署	工程表 (年度別事業計画)			
		R1	R2	R3	R4
① 鉢花等の品質向上技術普及	総合農業技術センター	技術開発	現地試験	普及支援	
	農務事務所			普及	
② 品目・品種の選定	総合農業技術センター	選定	選定・導入支援		
	農務事務所		導入支援		
栽培・省力技術の確立	総合農業技術センター	栽培技術確立			
		省力技術確立	現地試験		
③ コショウラン クリスマスエリカ	総合農業技術センター	技術開発			開発・普及
	総合農業技術センター	技術開発	普及		
	農務事務所		普及		
④ 切り花栽培技術の普及	総合農業技術センター	展示・普及			
	農務事務所		普及 導入支援		
	総合農業技術センター	技術確立 現地試験			

(3) 新たな需要や地域に適した品目・品種の選定と商品化の支援

具体的取組事項					
<p>① レモン・コーヒー等の実付き鉢物やドライフラワー等加工利用可能な切り花などの新たな需要が見込まれる品目・品種について栽培適性を確認し、導入を支援します。</p> <p>② 各地域で栽培適性が確認された実付き鉢物や切り花等の品目・品種について、出荷時期や出荷サイズ、加工品など需要に応じた商品の開発やPR活動を支援します。</p>					
取組事項	担当部署	工程表 (年度別事業計画)			
		R1	R2	R3	R4
①新品目新品種の選定と導入支援	総合農業技術センター	[Blue arrow spanning R1 to R4]			
	花き農水産課	栽培適性調査 技術普及			
②需要に応じた商品化支援	農務事務所		導入支援		
	花き農水産課		現地調査	技術指導	
	農務事務所		商品化検討	試作支援	
	総合農業技術センター		商品化検討	商品化支援	商品化支援
	花き農水産課	他産地事例調査	需要調査	商品化支援	商品化支援
	農務事務所		商品化検討	販売支援	
			技術検討		

## 2 県産花きのPRと販路の拡大

### 【取り組みの方向】

- ・ 県産花きの販売拡大を図るため、首都圏の展示会や市場商談会等で県産花きのPRや生産者の販売促進活動を支援します。
- ・ 花の地産地消を推進し、県産花きの県内での消費を拡大するため、生産者組織が行うPR活動を支援するとともに、直売所、公共施設、小売店、実需者等への県産花きのPRと利用拡大に向けた取組を推進します。
- ・ 県立フラワーセンターを活用し、県民や観光客、また、花の消費の少ない若者世代などに県産花きをPRし、消費を拡大します。

### 《数値目標等》

成果指標	現況値 (H30)	目標値 (R4)
直売向け品目・品種導入数	—	4品目(品種)

### (1) 消費地でのPRと販路の拡大

具体的取組事項					
① 県産花きを東京など花の消費地で広くPRするため、関東東海花の展示会など、全国規模の品評会や展示会への生産者の出展を支援します。					
② 東京や愛知など、国内外の小売店や全国の市場などが一同に集まる花きの市場商談会等において、県産花きの新商品等のニーズ把握を行うとともに、販路の拡大を図るため、市場商談会への生産者の出展等を支援します。					
取組事項	担当部署	工程表 (年度別事業計画)			
		R1	R2	R3	R4
①消費地でのPR	花き農水産課	PR・出展支援			
	農務事務所 総合農業技術センター	出展支援			
②販売促進活動支援	花き農水産課	出展支援	出展支援		
		出展支援	出展支援 需要調査		
	総合農業技術センター 農務事務所	情報提供	需要調査 情報提供		

## (2) 花の地産地消の推進

具体的取組事項					
<p>① 農産物直売所等での県産花きの消費を拡大するため、直売所等における様々なニーズに対応した品目・品種等を総合農業技術センター等で展示するとともに、多品目・多品種栽培に対応した苗の導入・栽培を支援します。 また、切り花の日持ち性向上技術や花束加工技術など商品の品質向上に向けた情報提供や研修会の開催を支援します。</p> <p>② 県産花きの知名度向上を図るため、生産者組織と連携し、県花き品評会や地域特産花きの展示PRなど、消費拡大イベント等の開催を支援します。</p> <p>③ 県内各地の公園や公共施設、観光施設、集客施設などにおける県産花きの利用を拡大するため、市町村や施設管理者等と連携し、飾花等に適した花きのPRと展示等を行います。 また、県産花きの利用を定着させるため、市町村担当者や施設管理者等を対象に、飾花後の省力管理などの情報提供や研修会を開催します。</p> <p>④ 県内の花き販売店など実需者と連携し、季節の花やその出荷時期など、県産花きの情報を発信し、消費拡大を推進します。</p>					
取組事項	担当部署	工程表 (年度別事業計画)			
		R1	R2	R3	R4
①直売向け 品目・品種 の導入支 援	農務事務所	→			
	総合農業技術センター	導入支援 研修会開催			
②消費拡大 活動支援	総合農業技術センター	→			
	農務事務所	活動支援			
③市町村等 公共施設 での利用 促進	花き農水産課	→		→	
		PR・展示支援 研修会開催支援		PR・利用推 進 研修会開催支援	
	農務事務所	→			
	総合農業技術センター	技術指導			
④県産花き の情報発 信	花き農水産課	技術情報提供 研修会開催			
			情報発信		

### (3) 県立フラワーセンターでの県産花きのPRと消費拡大

具体的取組事項					
<p>① 県立フラワーセンターでの県産花きの利用を更に拡大するため、生産者と連携し、飾花に適した県産花きの供給や県オリジナル花きの展示・PRを推進します。</p> <p>② 花の消費の少ない若者や観光客等に花の魅力を伝え消費を拡大するため、バラなど花をメインにしたイベントや、加工体験教室など指定管理者が行う取り組みを支援します。</p>					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R1	R2	R3	R4
①県産花きの展示PR	花き農水産課	▶			
	総合農業技術センター	供給・PR支援 展示・技術指導			
②県産花きの魅力PR	花き農水産課	▶			
		PR支援 利用提案			

### 3 花き産地の活性化と県産花きの新たな利用の拡大

#### 【取り組みの方向】

- ・ 花き産地の活性化を図るため、地域の中核的な生産者組織の活動を支援します。また、花き産業関係者の交流・連携を進めます。
- ・ 県産花きの新たな需要を開拓するため、観光や福祉、教育等新たな分野での県産花きの利用を促進します。

#### 《数値目標等》

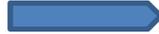
成 果 指 標	現 況 値 (H30)	目 標 値 (R4)
<b>県産花き利用施設数</b> ・ 医療機関・社会福祉施設 ・ 観光施設・宿泊施設等	-	4 施設

#### 【主な施策】

##### (1) 担い手の組織活動の活性化

具体的取組事項					
① 山梨県花き園芸組合連合会や富士北麓花き生産協議会など、地域の中核的な生産者組織を対象に、組織活動への助言や情報提供、組織の新たな取組実施に向けた支援を行います。更に、若手生産者グループについては、優良経営事例の検討や、情報交換の場づくりを実施します。 ② 県内の生産者組織、流通販売関係者、実需者、県などで構成される山梨県花き振興協議会の運営・活動を支援し、花き産業関係者の交流と連携を強化します。					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R1	R2	R3	R4
①組織活動への支援	総合農業技術センター 農務事務所	組織活動支援			
			取組提案・支援		
②花き産業関係者の連携支援	花き農水産課	連携会議開催			
	総合農業技術センター	活動支援			

## (2) 農福連携などによる福祉分野と連携した県産花きの利用促進

具体的取組事項					
<p>① 医療機関や社会福祉施設等での県産花きの利用を開拓するため、花き産業関係者と連携し、各施設での県産花きの飾花や園芸体験教室などの取組を支援します。</p> <p>② 福祉施設や花き生産者組織と連携し、花き生産現場等での障害者等の就労機会拡大に向けた取組を支援します。</p>					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R1	R2	R3	R4
①社会福祉施設での取組支援	花き農水産課				
		事例収集 取組支援	体制整備 取組支援	取組支援	取組支援
	総合農業技術センター				
	農務事務所	取組支援			
②農福連携の取組支援	花き農水産課				
		事例収集	取組支援		
	総合農業技術センター	取組支援			

## (3) 観光分野での県産花きの利用促進

具体的取組事項					
<p>① 県内各地の公園や公共施設、観光施設、集客施設などにおける県産花きの利用を拡大するため、市町村や施設管理者等と連携し、飾花等に適した花きのPRと展示等を行います。また、県産花きの利用を定着させるため、市町村担当者や施設管理者等を対象に、飾花後の省力管理などの情報提供や研修会を開催します。（再掲）</p>					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R1	R2	R3	R4
①観光施設等での利用促進	花き農水産課				
		PR・展示支援 研修会開催支援		PR・利用推進 研修会開催支援	
	農務事務所				
		指導			
	総合農業技術センター				
		技術情報提供 研修会開催			

#### (4) 地域と連携した花育活動の推進

具体的取組事項					
① 県内での花育活動を拡大するため、花き生産者等と連携し、県産花きを使った花壇づくりや寄せ植えなどの体験教室を開催します。 ② 花育活動で県産花きの利用を拡大するため、花き生産者等と連携し、市町村や花育ボランティア等への県産花きのPRや利用に向けた情報提供を行います。					
取組事項	担当部署	工程表（年度別事業計画）			
		R1	R2	R3	R4
①花育体験教室の開催支援	花き農水産課	▶			
	農務事務所	体験内容検討 開催			
		開催支援			
②花育での県産花き利用支援	花き農水産課	▶			
		県産花きPR 情報提供			

## 第5章 地域別重点推進事項

### 1 中北地域

#### (1) 地域の現状

##### ① 地域の概況

- 中北地域の農地は、甲府盆地の標高 250mから長野県境に近い標高 1,000mを越える地域まで幅広く分布し、年平均気温は 10.9℃ (アメダス大泉) から 14.7℃ (甲府地方気象台) と気象条件も変化に富んでいます。
- このように多様な立地条件や気候を活かし、水稻をはじめ、果樹、野菜、花き、畜産など、多岐にわたる農業経営が行われています。

##### ② 生産の概況

- 南アルプス市を中心とした平坦地では、シクラメンやニューギニアインパチェンスなどの鉢花が栽培されています。また、中央市などでは、コショウランやシンビジウムなどの洋ランが栽培され、法人経営も多く、特色ある経営を展開しています。切り花は、甲府市を中心にスターチス・シネンシスが栽培されています。
- 北杜市などの高冷地では、八ヶ岳南麓地域を中心に、コショウランやシンビジウムなどの洋ラン類の山上げ、クリスマスエリカや花壇苗などの栽培が行われています。
- 各地でふじさんアジサイが栽培されており、切り花・鉢花として出荷されています。



シクラメン (南アルプス市)



クリスマスエリカ (北杜市)

### ③ 地域の特徴的な動き

- 甲府市では、昭和 60 年頃から水稲や野菜との輪作が可能なスターチスが導入され、イチゴの株冷用の冷蔵庫を活用した早出し栽培や、J Aによる共選・出荷体制が整い産地化が進みました。現在は、ランタンキュラスなど他の切り花品目と組み合わせた生産や直売等の取り組みも一部で行われています。
  
- 中央市（旧田富町）では、春先の晴天率が高く気温上昇が早い気象条件を活かして、野菜の施設栽培が行われてきましたが、昭和 60 年以降、周年出荷が可能でより収益性の高い品目としてコチョウランが導入されました。現在では洋ラン類の専作経営を行う法人が、コスト低減技術を導入するとともに、小輪系品種の導入、プリザーブドフラワーの技術開発、洋ランと県特産品の詰め合わせパッケージ等新たな商品開発に取り組んでいます。また、様々な業界へのマーケティングを積極的に行い、新たな販路の開拓に取り組んでいます。
  
- 南アルプス市（旧白根町）は、かつて養蚕等が農業経営の中心でしたが、昭和 30 年頃、キクが導入され、露地栽培から施設栽培へと発展しました。その後、収益性の高い品目としてシクラメンが導入され、シンビジウムや各種鉢花の栽培も始まりました。昭和 40 年代以降には、経営者の世代交代とともに果樹からの転換が進み、シクラメンの底面給水法を導入した大規模経営が行われるようになりました。

また、ニューギニアインパチェンス等の補完品目の導入、冬場の雇用確保による周年出荷体制が確立し、花きの産地化が進みました。

切り花は、果樹との複合経営の中で、アルストロメリアやキンギョソウ等が栽培されています。
  
- 北杜市明野町では、平成元年ごろから切り花の補完品目として花壇苗が導入され、県立フラワーセンターへの苗供給をはじめ、ホームセンターとの契約栽培など、春から秋にかけて品質の高い苗生産が行われています。
  
- 北杜市大泉町、高根町、明野町では、クリスマスエリカが栽培されており、J A全農やまなしと J A梨北が連携して販売体制が構築され、県内外に出荷されています。

- 八ヶ岳南麓地域の鉢花・花壇苗生産者が中心となり八ヶ岳グリーンネットワーク（山梨支部 26 名）を設立し、地元の種苗会社等と連携する中で、研修会開催や市場商談会への出展、会員相互の情報交換、八ヶ岳ファーマーズマーケットの開催など、意欲的に活動を行っており会員数も増加しています。
- 地域内に数多く設置されている農産物直売所では、年間を通じ花き類に対する需要が多く、野菜と組み合わせて栽培することが可能なスターチスなどの切り花や、盆、彼岸等の需要期出荷に合わせた品種・作型の導入が進められています。また、八ヶ岳南麓地域の直売所では、夏期の観光客や地域住民をターゲットとしたカジュアルフラワーの需要が増加しており、消費者のニーズに対応した品目・品種の生産が行われています。
- ふじさんアジサイは、南アルプス市を中心に平成 24 年から鉢花の補完品目として栽培が始まりました。現在では、中央市や北杜市など地域全体で栽培され、切り花・鉢花として出荷されています。また、県オリジナル品種「ふじさんアジサイ‘あかね’（山梨 24-1）」の現地への普及が始まっています。
- 近年、鉢花農家に後継者が就農するなど、地域を担う若手の活躍が期待されています。

## （2）重点推進事項

- 需要に応じた花きの生産強化
  - ・ふじさんアジサイやクリスマスエリカ等の県オリジナル花きの導入や、コショウラン等の地域基幹品目の安定生産・低コスト省力栽培技術などの導入を支援します。
  - ・花き生産者の所得向上を図るため、試験研究の成果を踏まえ新たな補完品目として実付き鉢物等の導入と現地での栽培技術の確立・普及に取り組みます。
- 県産花きのPRと販路の拡大
  - ・花き生産者の新たな販路開拓及び所得向上のため、市場商談会への参加誘導を行います。また、実需者等への聞き取り調査等により市場ニーズを把握し、生産者への情報提供を行います。

- 担い手の確保・育成と生産者組織活動の活性化
  - ・やまなし花き若手会などの生産者組織に対して、様々な機会を利用し新しい栽培技術（施肥や薬剤の使用、仕立て方法、新品種等）や生産コストの低減など、情報提供を行い生産者組織の活動を活性化します。
  
- 県産花きの新たな需要の開拓
  - ・県産花きの消費拡大のため、管内市町や公共施設等への花壇飾花活動を推進します。

## 2 峡東地域

### (1) 地域の現状

#### ① 地域の概況

- 峡東地域の地形は扇状地特有で起伏が多く、農地は標高 255m から 800m に分布し、年平均気温は 13.8℃（アメダス勝沼）です。

農家は専業農家率が高く、立地条件を生かしてブドウ、モモを中心とした果樹農業を中心に、野菜、花きなど多様な農業が行われています。

#### ② 生産の概況

- 花き生産は、平坦～中間地を中心に、春先の気温上昇が早いという盆地特有の立地を生かし、洋ラン類や切り花の施設栽培が行われています。また、花き専作経営のほか、ブドウやモモなどの果樹との複合経営が行われています。
- 切り花では、笛吹市御坂町を中心としたバラや八代町を中心としたキクが栽培され、産地が形成されています。また、甲州市では、果樹などとの複合経営で、アルストロメリアやトルコギキョウなどが生産されています。
- 洋ラン類は、峡東地域 3 市それぞれでコチョウラン、シンビジウムなどが生産されています。



バラ（笛吹市）



キク（笛吹市）

### ③ 地域の特徴的な動き

- キクやバラなどの切り花は、果樹等の補完品目として昭和30年代に導入され、収益性が高いことから生産量が増加し、組織化も図られました。

バラは、施設化やロックウール栽培の導入に伴い周年出荷とバラ専作化が進みましたが、近年は燃油高騰や単価の伸び悩みから、冬期加温や出荷を行わない栽培体系の導入や、補完品目として果樹との複合経営を行う農家が増加しています。

キクは、低コスト化に向け露地栽培へのシフトや、果樹との複合経営が行われています。また、地域内の農産物直売所向けに複数の切り花品目を果樹などと組み合わせさせた経営が検討されています。

- 洋ラン類は、切り花生産からの転換や果樹の補完品目として古くから生産が行われ、平成に入ってからシンビジウムが導入されましたが、現在では農業者の高齢化等により生産者数は減少しています。

コチョウランは、現在では海外から開花株を導入し、短期間で出荷することにより、施設の回転率を向上させる計画生産が主流となっており、出荷計画に沿った生産と経営安定に向けた取り組みが行われています。

- 各地に市やJ A等が設置した農産物直売所は花き農家の販路のひとつとなっており、果樹農家が直売所向けの切り花や苗物を生産・出荷するなど、新たな動きが出ています。

- 耕作放棄地を利用してヒマワリや菜の花などを植栽し、モモの花との組み合わせ景観形成に利用するなど、地域振興を兼ねた取り組みが行われ、住民に花に親しむ機会を提供するほか、地域の新たな観光資源としても注目されています。

- 笛吹市では積極的に特産のバラをPRしており、温泉施設でのバラ風呂やバラの庭園、ローズティー等を提供するカフェなど、観光資源として活用されています。

- 近年、洋ラン農家やバラ農家などでは、農家子弟が後継者として経営に参画しており、地域を担う若手の活躍が期待されています。

## (2) 重点推進事項

- 消費者ニーズに対応した商品づくりへの支援
  - ・需要拡大や販路拡大を図るため、直売所などの関係機関や団体と連携し、消費者嗜好を把握し、ニーズにあった商品づくりや新たな付加価値の提案を行います。
  
- 切り花等直売向け品目・品種等の導入や栽培支援
  - ・果樹との複合経営が可能な花き品目を導入するため、果樹の端境期に生産出荷が可能な品目の選定と直売所を活用した販路拡大の取り組みを支援します。
  
- 観光地や公共施設等での県産花きの飾花利用の推進
  - ・県オリジナル品種や県産花きの利用を促進するため、公共施設や学校等の花壇の飾花活動を支援します。
  
- 県オリジナル品種の安定生産技術等の普及
  - ・ふじさんアジサイ等について、標高別の開花時期や花色変化など品種特性に応じた安定生産技術の普及や、飾花利用など新たな用途に対応した仕立てや施肥など栽培管理技術を普及します。
  
- 管内の花資源の活用促進
  - ・世界農業遺産認定に向けた活動と合わせ、地域の景観を構成するモモやスモモなどの果樹の花や、地域で行っている花の植栽、飾花等の取り組みについて、地域の新たな観光資源となるための活動を促進します。

### 3 峡南地域

#### (1) 地域の現状

##### ① 地域の概況

- 峡南地域の農地は標高 250m から 1,000m に広がりその多くは山間傾斜地に分布し、年平均気温は 14.7°C (アメダス南部) です。
- 農家 1 戸あたりの経営耕地面積は小さく、水稻を中心にスイートコーンや野沢菜などの露地野菜や果樹、花き、茶などの栽培が行われています。
- 農業の担い手は高齢者が主体で、兼業農家や自給的農家が多くを占めています。

##### ② 生産の概況

- 昭和 20 年代終わり頃から身延町中富地区や身延地区で栽培されているナンテンは、縁起の良い枝物として J A 等を通じ市場出荷が行われています。
- 富士川町穂積地区では、平成 24 年からふじさんアジサイが導入され、地元での販売はもとより、市場出荷も行われています。
- 農産物直売所出荷者には、パンジー等の花壇苗、盆彼岸を中心とした切り花の出荷を行っている生産者がいます。



ふじさんアジサイ (富士川町)



ナンテン (身延町)

### ③ 地域の特徴的な動き

- 富士川町穂積地区には、アジサイの名所があり、これを目当てに多くの観光客が訪れます。更に観光だけでなく地域の産業資源として活かせる方法を検討し、平成 24 年からふじさんアジサイの商品化に向けた取り組みが始まり、現在も市場出荷を中心に、地域のイベント等で販売されています。
  
- 身延町中富地区及び身延地区では、昭和 20 年代終わり頃から山間地の立地条件に合ったナンテン栽培が導入され、昭和 50 年頃には町の特産物として奨励されました。J A等による流通体制が整備され、主に正月飾り用として現在も県内や関西方面を中心に出荷されています。
  
- 令和 2 年度には中部横断自動車道が双葉 J C T～新清水 J C T間で開通する予定であり、交通アクセスの向上により地域への来訪者の増加が期待されます。

## (2) 重点推進事項

- 地域特産花きの消費拡大への支援
  - ・地域特産花き（ふじさんアジサイ、ナンテン）の品質向上に向けた技術支援を行うとともに、P R活動等について関係機関と協議し、知名度向上と販路拡大へ向けた支援を行います。
  
- 直売向け品目・品種等の導入や栽培支援
  - ・直売施設では花き類の需要も多く、需要期に合わせた切り花や花壇苗の他、試験研究の成果を踏まえた新たな品目の導入を検討します。また、地域の野菜類等と組み合わせた豊富な品揃えにより、地域内外から多くの消費者に立ち寄ってもらえる魅力ある直売施設づくりを支援します。

## 4 富士・東部地域

### (1) 地域の現状

#### ① 地域の概況

- 当地域は、県の東部に位置し1都3県に隣接しており、標高約200mの桂川流域から約1,000mの富士北麓地域まで標高差があり、また、年平均気温は9.0℃(アメダス山中湖)から13.0℃(アメダス大月)と地域差が大きい気候条件です。

#### ② 生産の概況

- 富士北麓地域では、主要品目であるアッサムニオイザクラ、シクラメン、エリカ類を中心として、様々な鉢花類の施設栽培が行われています。

花壇苗の秋出しビオラについては、広域的に産地が形成され、市場からも高い評価を得ています。また春先には地域内での飾花向けを中心に苗物が生産されています。

- 東部地域では、シクラメンやトコナツナデシコ等の施設栽培が行われていますが、直売所需要の増加に伴い、花壇苗や切り花の栽培も増加しています。



アッサムニオイザクラ (富士河口湖町)



切り花・6次産業化の研修会

### ③ 地域の特徴的な動き

- 富士北麓地域では、キャベツやダイコン等の高原野菜を生産する経営が主体でしたが、昭和 50 年代後半から、野菜の補完品目として葉ボタン等の花壇苗生産が始められました。さらに収益性の高い新たな品目として、アッサムニオイザクラが産地化されました。平成 3 年頃にはビオラを中心とした花壇苗の生産も増加するなど、高標高地特有の冷涼な気候条件を生かした花き産地を形成しています。
  
- 平成 9 年には花き産地の生産振興を目的として、7 市町村と 9 生産組織による富士北麓花壇苗生産協議会（現在の富士北麓花き生産協議会）を設立し、各生産組織の活動強化と会員間の情報共有を図ることで、生産者の資質向上に取り組んできました。現在は、技術研修会や市場商談会への出展など、生産と販路の拡大に向けた取り組みとともに、各研究会（アッサムニオイザクラ研究会、切り花研究会、花の 6 次産業化研究会）が活動を行い、産地の強化に取り組んでいます。
  
- 富士吉田市や鳴沢村を中心に栽培されているビオラは、地域に適した品種の選定や栽培方法が検討され、特に J A 鳴沢村では「ど根性ビオラ」という地域ブランドが確立し、産地全体で品質や知名度の向上が図られています。
  
- 富士河口湖町を中心に、アッサムニオイザクラの栽培が行われ、生産安定に向けた栽培技術の向上や販路拡大に向けた P R 活動が積極的に行われています。農家による新品種の育種等も積極的に行われ、品種構成の多様化により、「富士のにおいざくら」として産地ブランドが確立されています。また、近年は、ニオイザクラ研究会による共同販売が開始され、新たな需要拡大に向けた取り組みが行われています。
  
- 富士北麓地域では、景観形成作物としての花の活用や、花をテーマにしたイベントの開催などが盛んに行われています。

富士河口湖町では、町内全域を対象としたまちかど花壇への飾花やラベンダーをメインとしたハーブフェスティバル、山中湖村では、花の都公園を拠点とした季節の花の植栽や花の摘み取りが行われており、他の市町村においても地元産花きを利用した飾花活動が実施されています。

近年、国内外からの観光客の増加に合わせ、更なる地域内の飾花需要の掘り起こしと消費拡大を目指し、花壇苗の新品種やふじさんアジサイ等の飾花利用などの取り組みも始まっています。

- 富士河口湖町や鳴沢村では、地域特産の花への理解促進と地産地消を推進するため、生産者組織と学校が連携した花育活動が行われ、親子で花に親しむ機会を増やす取り組みが実施されています。
- 大月市では、シクラメンを経営の主体とした鉢花の施設栽培が行われています。春の出荷品目であるトコナツナデシコについては、四季咲き性で開花期間が長い品種を農家が育成し、県内の生産者と連携してPRすることでブランド化を進めるとともに、新たな品種の育成や市場商談会への出展などに取り組んでいます。
- 農産物直売所を拠点とし花きの需要を拡大するため、盆・彼岸等の需要期向けの切り花や、無加温ハウスを活用した春出しの花壇苗、切り花など、新たな品目・品種の導入に取り組んでいます。
- 平成30年度に設立された花の6次産業化研究会では、花の新たな需要の掘り起こしと出荷ロスの削減をめざし、ドライフラワーなど加工にも利用可能な品目の検討や加工技術の研修、新たな加工品開発に取り組んでいます。

## (2) 重点推進事項

- 産地を支える生産組織及び新たな担い手の確保育成
  - ・地域の核となる富士北麓花き生産協議会の更なる活性化を図るため、JAや市町村など関係機関と連携し、各種研修会や販促活動等の取組を支援し、組織の自立活動を促進します。
  - ・新規就農希望者や定年帰農者等の経営安定と定着を図るため、市町村と連携し、耕作放棄地や空き施設等の情報を提供するとともに技術指導を行います。
- 地域主要品目の安定生産とブランド強化
  - ・ビオラやアッサムニオイザクラ等の主要品目の生産安定を図るため、品種の選定や計画出荷、病虫害防除等に関する指導に取り組めます。
  - ・ブランド強化による競争力のある産地づくりを推進するため、消費者ニーズに対応した新商品の開発や、高付加価値販売に向けた取り組みを支援します。
  - ・ビオラや球根ベゴニア、アッサムニオイザクラなど生産者が育種した新品種の産地化やブランド化を図るため、試験研究機関や市場、小売店等と連携し、新品種の安定生産や有利販売を支援します。

- ・ふじさんアジサイやサンゴミズキ等の各種花木類についても、経営の補完品目として一層の生産振興を図ります。
  
- 低コスト栽培技術と新たな品目・品種の導入
  - ・高冷地栽培における冬期の加温経費の削減による低コスト化を推進するため、省エネ栽培技術の普及や、露地、無加温ハウスなどで栽培可能な品目・品種の導入を促進します。
  - ・新たな品目の導入や直売所出荷向けの少量多品目生産を実現するため、市販苗の共同購入に向けた体制づくりを支援します。
  
- 観光と連携した県産花きの活用
  - ・新たな花きの需要拡大を図るため、観光スポットなど人が集う場所を中心に、ビオラ等の花壇苗やふじさんアジサイによる景観形成の取り組みを支援するとともに、花や緑に親しむ機会を促進します。
  - ・観光地である地域の特性を生かし、ホテルや旅館等の地元観光業者と連携して切り花や鉢物の利用拡大を図るとともに、道の駅や高速道路のSA、PA等の集客力の高い施設を活用した安定販売を進めます。
  
- 花の6次産業化支援
  - ・新しい花の需要掘り起こしと出荷ロスを低減するため、花の加工品開発に向けた取り組みを支援します。
  
- 農福連携への取り組み支援
  - ・花の生産拡大等に向けて、花き生産者と福祉施設との連携を支援します。

## 第6章 主要品目の推進事項

### 1 洋ラン

品目名	コチョウラン		シンビジウム	
生産規模 (H30)	栽培面積 5.4ha	生産額 8.4億円	栽培面積 6.3ha	生産額 4.3億円
主産地	中央市、笛吹市、山梨市		南アルプス市、笛吹市、甲州市	
現状 課題	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外から開花株を導入し、短期間で出荷することにより施設の回転率向上と出荷量増加に取り組んでいます。</li> <li>資材や輸送費の高騰など生産コストが増加しています。</li> <li>光条件の改善など、より計画的かつ効率的に生産出荷を行うための技術確立が求められています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大輪系品種の他、正月向けや冠婚葬祭用の商品の開発と提案など、年間を通じた需要の確保に向けた取組も行われています。</li> <li>大型コチョウランは年間を通じて贈答用として一定の需要があります。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本県の標高差を活かした夏期山上げ栽培により 11～12 月出荷を行っています。</li> <li>果樹や春～秋の出荷が可能な切り花品目など経営を補完する品目の導入が一部で行われています。</li> <li>需要期の 12 月に計画的に安定して出荷する技術が求められています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大型商品のため近年輸送コストが増大し、出荷市場が首都圏中心に縮小される傾向にあります。</li> </ul>	
推進 事項	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画的かつ効率的な生産を行うため、LED補光を活用し施設内の光条件の均一化による品質向上技術の確立と導入を推進します。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他産地に対する競争力の強化に向け、施肥など更なる高品質化に向けた栽培技術の支援を行います。</li> <li>収益の向上に向け、シンビジウム栽培と組み合わせが可能な補完的な品目の導入や栽培技術等に対する支援を行います。</li> </ul>	
	<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>販路の拡大や新品目の導入・商品開発等に取り組む生産者に対し、新たな需要の把握や更なる商品開発を進めるため、市場商談会等への出展を支援します。</li> <li>高品質な花のPRや消費拡大に向け、花き品評会の開催や関東東海花の展覧会への出展を支援します。</li> </ul>			

## 2 鉢花

品目名	シクラメン		アッサムニオイザクラ	
生産規模 (H30)	栽培面積 5.3ha	生産額 3.2 億円	生産者数 12 人	生産量 90,000 鉢
主産地	南アルプス市、笛吹市		富士河口湖町、富士吉田市、 鳴沢村、北杜市	
現状 課題	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・底面給水を中心とした栽培が行われ、小型なサイズから大鉢まで多様な出荷規格での生産とそれに伴う多品種化が進んでいます。</li> <li>・シクラメンを基幹品目としてニューギニアインパチェンスやラナンキュラスなどとの組み合わせにより、効率的な施設の利用が行われています。</li> <li>・種苗費等の高騰により生産コスト低減が求められています。</li> <li>・夏期の高温や病害虫等による品質への影響が発生しています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売は市場出荷が中心で、他産地との差別化販売に取り組んでいます。</li> <li>・シクラメンは小鉢サイズのニーズが高まっています。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開花調節技術により、敬老の日の需要期をピークに8月～12月まで出荷時期が拡大しています。</li> <li>・生産者が育成した独自品種を地域で活用し産地のブランド化を図っています。</li> <li>・近年は夏期高温時の出荷に見られる落花・落蕾症状の対策が求められています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場関係者を招いた現地商談会の開催や、地元での直売などを行っています。</li> <li>・県内での認知度を向上することにより、県内での販売拡大が見込まれます。</li> <li>・市場出荷では、敬老の日を中心とした出荷から、花持ちが良い年末出荷のニーズも高まっています。</li> </ul>	
推進 事項	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期の高温対策や病害虫対策など安定生産技術の情報提供や導入を支援します。</li> <li>・施設の有効活用が可能な補完品目等の導入や栽培を支援します。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要作型である敬老の日出荷における落花・落蕾症状などの課題解決に向けた技術を普及します。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「良い夫婦の日」ギフトなど新たな需要が期待される 11 月～年末出荷の検討や消費拡大に向けたPR等を支援します。</li> </ul>	
	<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな需要の把握や更なる商品開発を行うため、販路の拡大や新品目の導入等に取り組む生産者に対し、市場商談会等への出展を支援します。</li> </ul>			

### 3 県オリジナル花き

品目名	ふじさんアジサイ		クリスマスエリカ	
生産規模 (H30)	生産者数 13 人	生産量 15,000 本	生産者数 3 人	生産量 2000 鉢
主産地	北杜市、南アルプス市、笛吹市、富士川町		北杜市	
現状課題	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋ラン、鉢物、野菜、果樹経営などの補完品目として導入され、山梨県花き園芸組合連合会「ふじさんアジサイ研究会」を中心に、切り花・鉢花生産に取り組んでいます。</li> <li>・平成 29 年から県オリジナル品種「ふじさんアジサイ ‘あかね’ (山梨 24-1)」、「ふじさんアジサイ ‘ほくと’ (山梨 22-1)」の種苗の農家等への供給を始めています。</li> <li>・県オリジナル品種は、開花など既存品種と異なる特性を持つため、安定生産に向けた対策が必要となっています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存品種のライムライトは、切り花・鉢花として、県内外の市場や直売所等に出荷されています。</li> <li>・新たな用途として観光地、公園などでの飾花利用やドライフラワーなど加工用としてのニーズが高まっています。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 号鉢～尺鉢が生産されています。</li> <li>・成品率の向上と生産量の増加に向け J A や研究会と連携した現地巡回や技術検討を行っています。</li> <li>・早期開花のため山上げ栽培が行われてきましたが、省力的な早期開花技術の確立と普及が求められています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「富士の国やまなしの逸品農産物」の認証を受け販売されています。</li> <li>・クリスマスのオリジナル花きとしての需要が高まっています。</li> <li>・販売後、水切れ等による日持ち性の低下が発生しているため、購入後の日持ち性向上や、適切な管理方法の周知徹底が求められています。</li> </ul>	
推進事項	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高冷地野菜・花き振興センターにおいて、県オリジナル品種の優良母株等の生産供給と新たな品種の育成に取り組めます。</li> <li>・開花と花色変化に及ぼす影響について試験を行います。また、切り花の剪定・仕立て方法、鉢花の草姿改善技術等を確立・普及します。</li> <li>・飾花利用など新たな用途に対応した仕立てや施肥などの栽培管理技術を確立・普及します。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場商談会等への出展を支援し、県オリジナル品種の P R や新たな商品の需要調査などを行います。</li> <li>・飾花利用者管理マニュアルを配布し、県内での飾花利用の拡大を図ります。</li> <li>・飾花やドライフラワーなど新たな利用の拡大に向けた取組を支援します。</li> </ul>		<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者の成品率の向上と山上げ負担を軽減するため、冷蔵施設を利用した低温処理による省力的な早期開花技術を確立・普及します。</li> <li>・日持ち性を高めるための用土など、品質向上技術を現地へ普及します。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者が長期間観賞できるように、受け皿へのかん水など、購入後の適切な管理方法の周知に取り組めます。</li> </ul>	

## 4 切り花

品目名	バラ、その他切り花（露地・無加温栽培品目）	
生産規模 (H30)	栽培面積 35.7ha	生産額 8.1 億円
主産地	笛吹市（バラ、キク） 甲府市（スターチス等） 北杜市、鳴沢村（直売所向け切り花各種）	
現状課題	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様なニーズに対応するため、切り花全般に多品目・多品種化が進んでいます。</li> <li>バラはロックウールを使用したアーチング栽培により周年出荷されています。近年では、燃油高騰や単価の伸び悩みから冬期加温や出荷を控える生産者や、補完品目として果樹を導入する生産者が見られます。</li> <li>農産物直売所等への出荷を目的として、新たに切り花生産を希望する農家があり、コストの高い施設を必要としない品目やその栽培技術の導入が求められています。</li> <li>直売所等での消費者のニーズに対応し、多品目・多品種生産を行う小規模農家には、種苗会社の苗の最小販売ロットが大きく、生産拡大を図る際の課題となっています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーや直売所等での販売が定着し、お盆(7月、8月)、彼岸(9月)に加え、新たに年末や3月の彼岸などの需要も高まっています。</li> <li>直売所等では、日持ち向上に向けた水あげ技術や、花の組み合わせ、パッケージなど花束商品品質の向上が求められています。</li> <li>ドライフラワーやプリザーブドフラワーなど加工でも利用可能な品目のニーズが高まっています。</li> </ul>	
推進事項	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産者に、切り花の多様な品目・品種の栽培展示や情報提供等を行い、地域への導入を支援します。</li> <li>果樹、野菜などとの複合的な経営が可能な品目・品種の導入や栽培技術等の導入を推進します。</li> <li>7月、8月盆に加え年末や3月彼岸などの需要期の出荷に向けた品目・品種の選定と、無加温ハウスや大型トンネル等を活用した低コスト栽培技術の普及に取り組みます。</li> <li>切り花の多品目・多品種栽培に向け、市販苗共同購入体制づくりを支援します。</li> <li>ドライフラワー等加工利用可能な切り花品目の栽培適性を把握し、情報提供するとともに、その商品化を支援します。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>切り花の日持ち性向上技術や、花の組み合わせ、パッケージ等の花束加工技術など、商品の品質向上に向けた情報提供や研修会の開催を支援します。</li> </ul>	

## 5 苗物類

品目名	ビオラ、ペゴニア、マリーゴールド等花壇苗	
生産規模 (H30)	栽培面積 24.5 h a	生産額 6.4 億円
主産地	北杜市、富士吉田市、鳴沢村、富士河口湖町	
現状 課題	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富士北麓地域や八ヶ岳南麓地域など高冷地を中心に秋出し花壇苗、宿根性花壇苗等の生産が行われています。また花苗以外に、野菜苗生産を行っている生産者もいます。</li> <li>・品目・品種の多様化が進んでおり、地域に適した新品目・新品種の選定と、早期に安定して生産出荷可能な技術が求められています。</li> <li>・夏期の高温や病害虫等による品質への影響が発生しています。</li> <li>・飾花やギャザリング（寄せ植え）など需要に対応した新たな出荷規格とその生産技術が求められています。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の需要が多様化しており、市場や販売店では、品種の変遷のスピードが早くなっています。</li> <li>・県内の市町村等では、美しいまちなみづくりなどを目的とした、公共花壇等への飾花活動が行われています。</li> <li>・市町村や公園関係者などの花壇管理者からは、長期間観賞でき、省力的に管理できる花などの情報提供や技術指導が求められています。</li> <li>・県内外の観光施設では、大規模な花の植栽（飾花）により集客を図る取組が行われ、注目されています。</li> </ul>	
推進 事項	<p>《生産・経営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平坦地から高冷地まで標高差や環境条件が異なる地域の飾花に適した品目・品種の選定や導入を支援します。</li> <li>・花壇苗の高品質化に向け、9 マステストを活用した最適土生産に向けた技術を普及します。</li> <li>・寄せ植え、飾花など消費者・実需者のニーズに対応した新たな出荷規格とその生産に向けた栽培技術を確立・普及します。</li> </ul> <p>《販売・消費》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の優れた花壇苗の品質をPRし、消費拡大を図るため、県内の公共施設や観光施設等での飾花展示等の取り組みを支援します。</li> <li>・飾花後の品質を向上させるため、施肥管理や長期間開花や省力的な管理技術など、管理者向けの技術の導入を支援します。</li> </ul>	